

通常の学級における包摂力のある好事例

【キーワード】	支持的風土、情報保障、分かる環境
【学校、学年】	小学校 【 2 】年
【状況、様子 等】	<p>○児童Mについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補聴器装用。</li> <li>・きこえにくさから、教師の指示が伝わらなかつたり、教室の騒音に困っていたりする様子があった。</li> <li>・指示や発問が伝わらなかつたり、伝わっても言葉の意味が分からなかつたりする経験の繰り返しから、学習への動機付けが低下し、机に伏してしまうような場面も見られた。</li> </ul>
【対応・工夫】 支援、 合理的配慮、 基礎的環境整備、 学級経営、 支援体制 等	<p>○音楽の授業における対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支持的風土のある学級経営：本児の発言を温かく受け止める雰囲気、指導すべきところはきちっと指導する態度を心掛けた。（支援体制）</li> <li>・デジタルワイヤレス補聴援助システム「ロジャー」活用（支援）</li> <li>・電子黒板を活用した視覚情報の提示、視覚教材の活用：「今月の歌」における流れる歌詞字幕の提示をした。（支援）</li> <li>・指差し、手差しの活用：発表者や注目してほしい場所などを指や手で示した。（支援）</li> <li>・板書の活用：本児の発言や授業のキーワードなどを黒板に記し、情報を残すようにした。（支援）</li> </ul>
【結果、変容 等】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メリハリのある落ち着いた学級の雰囲気により、子供たちの学習規律を守ろうとする態度が育まれ、「静かにする」「発表する」といった行動の切り替えができるようになり、比較的静かな環境の中で過ごすことができた。そのことによって、騒音が減り、教師の指示が伝わりやすくなった。</li> <li>・「ロジャー」の活用により、教師の音声をダイレクトに本児へ届けることができるため、肉声のみの時よりも指示内容を理解して行動に移すことができた。</li> <li>・字幕などの視覚教材の活用により、「今何をしているのか」「どこを歌っているのか」等の情報を得やすくなり、安心して活動に参加できた。</li> <li>・指差し、手差しを用いて「誰が発表しているのか」「どこに注目すべきなのか」を明確に示すことで、情報源に目を向け、見ながらきくことができ、情報の漏れを防ぐ手助けとなった。</li> <li>・授業中の発言や、大切なことなどを黒板に書き記すことで、音声だけでは消えてしまう情報を目で見て分かる形で残すことができ、きこえなかった内容や勘違いして伝わった内容などを正確に理解するための手立てとなった。</li> </ul>